

教科名	社 会	科目名	社会 a	履修学年	中学	1 年	全 組	
単位数	2	使用教科書 教材等	帝国書院「中学生の地理」 帝国書院「中学校社会科地図」					
担当者	今井		帝国書院「アドバンス 中学地理資料」					
学習目標	現代社会では、国民一人ひとり国際社会の一員としてさまざまな課題に対して自ら調べ・考えていくことが求められている。ここでは、世界各国の自然の様子と人々の活動を学習し、日本と各国とを比較できるようにすることを目標とする。							
学習内容	中学一年では、世界の自然と人々の活動について理解できるよう、基本的な学習をする。授業では、世界の地形や気候などの様子を理解し、それぞれの自然での人々の活動や生活などの現象が、なぜそこで起きているのかを理解できるように、具体的な例をあげて説明し、理解できるように進める。また、高校の地理で学習する内容や用語についても関連するところを説明していく。使用教材は、教科書・地図帳・副教材そして配布プリントを中心に進める。							
授業方法	講義形式による授業を中心にし、必要に応じてプリントを配布し、白地図作業を行うため、地図帳は決して忘れないようにすること。加えて、タブレット端末を用いてGIS（地理情報システム）にも触れる機会を設ける。作業成果については、ロイロノートを活用しての発表機会も設けるものとする。							
評価方法	評価方法は定期考査と平常点（課題・ノート提出・授業態度など）を加味し、学期ごとに評価する。課題に対する未提出は減点とする。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区 分 1 評 価	区 分 2 評 価
1 学 期	4 月	世界のすがた	世界の姿				1 学 期 中 間 考 査	
	5 月	世界のすがた	地球儀と世界地図のちがい					
	6 月	世界のすがた	国境と領土問題					
	7 月	地域調査	地域調査（学校周辺の地形）					
	8 月							
2 学 期	9 月	地域調査	GISに触れる				2 学 期 中 間 考 査	
	10 月	世界のすがた	世界の地形					
	11 月	世界のすがた	世界の気候と農業、生活文化					
	12 月	世界のすがた	世界の気候と農業、生活文化					
3 学 期	1 月	世界のすがた	世界の宗教と民族問題				学 年 末 考 査	
	2 月	世界のすがた	世界の人口と人口問題					
	3 月	世界のすがた	世界の都市と都市問題					

教科名	地理 歴史	科目名	社会 b	履修学年	中学・高校	1 年 A, B, C, D, E 組
単位数	週あたり 2 時間	使用教科書 教材等	山川出版社「中学歴史 日本と世界」 浜島書店 「つながる歴史 東京都版」			
担当者	堀内・星野					
学習目標	日本の歴史の学習を通して、現代社会の成り立ちと人類が今後歩むべき方向について考えさせると共に、資料に即して物事を判断する態度を学ばせる。					
学習内容	人類の出現から平氏政権の終焉までの歴史について扱う。夏季休暇に際しては、社会 a と共同で各自の居宅周辺の歴史と地理に係わる事象について観察させ、そのレポートの作成を通して学習成果の定着をはかる。					
授業方法	中学 3 年終了時に現代史(平成の歴史)が終了することを目標に授業を展開する。これの実現のために授業は、講義形式を中心とし、時間にゆとりが生ずる場合は参加型の対話形式を導入する。单元ごとに宿題形式の課題を課す。					
備考	評価は、定期考査の得点に平常点(課題の得点・授業態度・小テストの得点など)を加味して算出する。					

## 授業計画

学期	月	学習内容・单元等	区分 評価 1	区分 評価 2
1 学期	4 月	年代の表し方 人類の出現と農耕・牧畜の始まり オリエントの古代文明、アジアに芽生えた古代文明、大帝国の出現と交流	1 学期 中間考査	
	5 月	旧石器時代から縄文時代へ ↓ 稲作とクニの始まり		
	6 月	大王の支配と渡来人 ↓	1 学期 期末考査	
	7 月			
	8 月			
2 学期	9 月	聖徳太子の政治と飛鳥文化 7～8 世紀の世界 大化の改新	2 学期 中間考査	
	10 月	↓ 大宝律令の制定		
	11 月	奈良の都と天平文化 律令制下の人々の暮らし ↓	2 学期 期末考査	
	12 月			
3 学期	1 月	平安の都 摂関政治	学年 末考査	
	2 月	国風文化の誕生 10～13 世紀ごろの世界 院政と平氏政権 ↓		
	3 月			

教科名	社会	科目名	社会 a	履修学年	中学	2 年 全 組		
単位数	2	使用教科書 教材等	帝国書院「中学生の地理」 / 帝国書院「中学校社会科地図」 帝国書院「アドバンス中学地理資料」					
担当者	阿部 (晃)							
学習目標	1年次に引き続き、地理的事象に対する関心を高め、広い視野にたつて日本の各地域についての基礎知識を習得する。							
学習内容	九州地方から北海道地方までの日本の各地域を概観しながら、産業や現在話題となっている社会的諸問題についての知識を深め、地域的特色を捉えるための視点や方法、統計データの取得方法を身に付ける。							
授業方法	講義形式による授業を中心とし、学習した内容を映像で確認することで視覚的にも地理的事象を理解させる。白地図の作業を随時行い、統計データなどを地図上で表現させる。							
評価方法	定期考査の素点に、課題（白地図・ノート）の提出状況から平常点を加味して評価する。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区分 1 評価	区分 2 評価
1 学期	4 月	日本の地域区分 九州地方	行政区分以外の境界線を理解させる。統計地図の作成 南西諸島の位置、日本の領域を理解させる 南西諸島の地形とそこでの生活を理解させる				1 学期 中間考査	
	5 月	九州地方	南西諸島の地形、自然環境とその産業を理解させる					
	6 月	九州地方	火山地形と自然災害、そこでの生活を理解させる				1 学期 期末考査	
		九州地方	火山地形とその産業を理解させる					
	7 月	九州地方	干潟とそこでの産業、自然保護活動について理解させる					
8 月	中国・四国地方	日本の気候を理解させる						
2 学期	9 月	中国・四国地方	日本の気候を理解させる 日本の気候と農業を理解させる 日本の気候と工業立地を理解させる				2 学期 中間考査	
	10 月	近畿地方	日本の地形と自然災害を理解させる 自然災害と防災について理解させる					
	11 月	中部地方	日本のエネルギー問題を理解させる 様々なエネルギー発電の特徴を理解させる				2 学期 期末考査	
	12 月	関東地方	日本の都市と都市問題を理解させる					
3 学期	1 月	関東地方 東北地方	日本の都市と都市問題を理解させる 日本の水産業と林業を理解させる				学年 末考査	
	2 月	東北地方 北海道地方	日本の水産業と林業を理解させる アイヌ文化とアイヌ語起源の地名を理解させる					
	3 月	北海道地方	北海道の開拓の歴史を理解させる					

教科名	地理歴史	科目名	社会 b	履修学年	中学・高校	2年全クラス		
単位数	週あたり2時間	使用教科書 教材等	教育出版「中学社会 歴史 未来をひらく」					
担当者	島崎		浜島書店「つながる歴史 東京都版」					
学習目標	日本の歴史の学習を通して、現代社会の成り立ちと人類が今後歩むべき方向について考えさせると共に、資料に即して物事を判断する態度を学ばせる。							
学習内容	1年からの継続で、鎌倉時代から天保の改革までの歴史について扱う。夏季休暇に際しては、学習成果の定着をはかるために社会 a と共同で遺跡とその出土資料を扱う博物館(資料館)を見学させて、その遺跡について地理と歴史の面から理解できたところをレポートにまとめさせる。							
授業方法	中学3年終了時に現代史(平成の歴史)が終了することを目標に授業を展開する。これの実現のために授業は、講義形式を中心とし、時間にゆとりが生ずる場合は参加型の対話形式を導入する。 単元ごとに宿題形式の課題を課す。 成績不振者および希望者には、放課後や昼休み等に小テストを実施する。							
備考	評価は、定期考査の得点に平常点(課題の得点・授業態度・小テストの得点など)を加味して算出する。学期末の評価が3以下の場合、課題の提出を求める。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区分 1 評価	区分 2 評価
1 学期	4月	新しい仏教と鎌倉文化 元寇と鎌倉幕府の滅亡					1 学期 中間 考査	
	5月	南北朝の内乱と室町幕府の成立 東アジア世界の交流						
	6月	琉球王国とアイヌ民族 産業の発達と民衆の成長					1 学期 期 末 考査	
	7月	応仁の乱と戦国大名の出現 室町文化とその広まり						
	8月	※夏休み課題						
2 学期	9月	ヨーロッパ人の大航海 戦国の世に現れた南蛮人 織田信長、豊臣秀吉					2 学期 中間 考査	
	10月	豊臣秀吉の政治 南蛮文化と桃山文化 江戸幕府の成立と幕藩体制						
	11月	江戸時代の国際関係 江戸時代の身分制度					2 学期 期 末 考査	
	12月	経済の発達と都市の繁栄、元禄文化と暮らしの変化						
3 学期	1月	農村の変化と百姓一揆の高まり 享保の改革と寛政の改革 学問の広まりと化政文化、内と外の危機					学 年 末 考 査	
	2月	大御所時代 ロシアの接近、対外関係						
	3月							

教科名	社会	科目名	社会a	履修学年	中学	3年	全組	
単位数	週2時間	使用教科書 教材等	教育出版『中学社会 公民 ともに生きる』 とうほう『政治・経済資料2021』／実教出版『高校政治・経済』					
担当者	酒井、梅澤							
学習目標	主権者となるために必要な基礎的知識を身につけ、実社会における問題を主体的に考えられるようになる。							
学習内容	政治の内容を中心に学習する。授業は、中学の学習指導要領の内容にとどまらずに、高校の政治・経済において学習する内容や用語についても学習する。使用教材としては、教科書、資料集の他に、高校政治・経済の教科書を使用する。							
授業方法	講義形式による授業を中心とする。また、夏休みや冬休みには長期休暇中課題としてレポート・作文を提出してもらおう。その他、課外授業として裁判を傍聴し、自分の意見をまとめてもらおう。							
評価方法	評価については、定期考査と平常点（課題提出・ノート提出・授業態度など）で学期ごとに評価する。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区分 1	区分 2
1 学期	4 月	政治と法					1 学期 中間 考査	
	5 月	民主政治と人権保障の発展 国民主権と民主主義の発展 世界の政治体制						
	6 月	日本国憲法の成立 平和主義 基本的人権の保障					1 学期 期 末 考査	
	7 月	人権のひろがり						
	8 月	※夏休みの課題						
2 学期	9 月	立法					2 学期 中間 考査	
	10 月	行政 司法 地方自治						
	11 月	戦後政治の歩み 選挙制度と政党					2 学期 期 末 考査	
	12 月	政治参加と世論 ※裁判傍聴（12月実施予定） ※冬休みの課題						
3 学期	1 月	国際政治の特質と国際法 国際連合と国際協力					学 年 末 考 査	
	2 月	現代国際政治の動向 核兵器と軍縮 国際紛争と難民						
	3 月	国際政治と日本 ※裁判傍聴（予備日）						

教科名	社会	科目名	社会 b	履修学年	中学	3年生 全組
単位数	週あたり2時間	使用教材書 教材等	教育出版「中学社会 未来をひらく」 浜島書店「つながる歴史 東京都版」			
担当者	田畑					
学習目標	日本の歴史の学習を通して現代社会の成り立ちや国際情勢に目を向けさせ、自分たちが暮らす社会に関心を持つと共に、日本の歴史に興味を持ってもらう。また資料に即して物事を判断させる態度を学ばせる。					
学習内容	江戸時代半ばから近代、近現代にかけて学習する。また、同時期の世界情勢にも触れ、視野を広く多様な見解が身につくよう意識する。					
授業方法	プリントを配付し動画と講義形式で授業を展開する。また、個人作業やグループワークも行う。 单元ごとに問題演習のプリントを配付する。 学期末における成績不良者には別途課題を課す。(学期評価3以下の場合)					
備考	評価は、定期考査の得点に加え、平常点(課題の得点・授業態度・小テストの得点など)を加味して算出する。 学期末の評価が3以下の場合、課題を与える。					

## 授業計画

学期	月	学習内容・単元等	区分1 評価	区分2 評価
1 学期	4 月	武断政治から文治政治へ 江戸時代の経済と産業の発達 幕藩体制の動揺と政治改革	1 学期 中間 考査	
	5 月	幕藩体制の危機 新しい学問の形成と化政文化 開国と開港		
	6 月	不平等条約締結とその影響 尊王攘夷と倒幕 大政奉還と王政復古	1 学期 期 末 考 査	
	7 月	明治維新 自由民権運動		
	8 月			
2 学期	9 月	条約改正 憲法制定と国会開設 日清戦争	2 学期 中 間 考 査	
	10 月	日露戦争 大正デモクラシー		
	11 月	第一次世界大戦 新たな国際秩序 大正時代の国内政治	2 学期 期 末 考 査	
	12 月			
3 学期	1 月	満州事変と軍部の台頭 日中戦争	学 年 末 考 査	
	2 月	アジア・太平洋戦争 終戦と敗戦 占領下の日本と独立		
	3 月	戦後の日本		